

【報告者】 堤 智

【学年】 6年

【教科・単元名など】 理科 『大地のつくりと変化』

【実践内容】

<学習課題> 地層から三の丸小学校の土地の変化を想像する。



本校のボーリング資料



ピックアップした資料

- T1.三の丸小の運動場の下は地層があるか考えさせる。そしてその根拠もノートに書かせる。
C.ない。そばには川がないし、海岸もそんなに近くではない。
C.ある。教科書に載っている地層の写真の場所は地図帳で調べたら山の中だった。可能性はある。
- T2.ボーリング資料(腐葉土層(-2m程度)、細砂層(-15m程度)、ローム層(-25m程度)、砂礫層(-40m程度))を提示する。
C.深さによって全然色が違う。地層が下にあるんだ。でもなんでだろう。
- T3.資料のそれぞれが何であるのかを詳しく考察していく。
腐葉土層...家が沢山できる前はこの辺は木がいっぱいあったんだろうな。
細砂層...海岸線がすぐそばにまできていた時代もあったのかな。
ローム層...(ロームとは火山灰が風化した土壌であることを教師が伝えた。)
大きな火山の爆発があって積もったのかな。富士山の爆発かな。
- C.地層から三の丸小学校の土地の歴史がわかった。他のところにもきっと地層ができていよ。

【反省】

児童は新鮮な驚きをもって資料を見ていた。三の丸小学校には地層がないと考えていた児童が学級の約半数いたことにも起因する。また実物を見せることでも興味も換気するすることができたと考える。ただ、運動場を掘って実際の地層のつくりを触りながら観察ことにより、この学習での体験がさらに印象づけられたと考える。また、他の地域についての地層に思考が広がっているので、地質調査資料などから考察することも深い学習理解につながると考える。

<参考文献> なし